

A. 主な動き

1. 内政

黒海艦隊駐留延長問題

・1日、「スヴァボーダ」運動は、4月27日の黒海艦隊駐留延長合意批准に対する抗議活動に参加したとして、4名の党指導者が不当に拘束されたと発表。

放送の自由

・6日、TV局「1+1」のジャーナリストは、政権を非難するテーマの放送を禁止されたと発表。

・7日、STB局のジャーナリストも、番組「オークナ(窓)」に対し検閲が行われていると非難。

・7日、「国境なき記者団」は、TV局「1+1」及びSTBの問題に関し憂慮を表明。

その他

・6日、ザポロージェでスターリン像の除幕式を実施。これに関しラヴリノーヴィチ法務相は、ウクライナにスターリン像は必要ないとコメント。

・6日、シモネンコ共産党党首は、ザポロージェにスターリン像を設置する共産党のイニシアチヴに対し、与党連合内から反対は起こらなかったと発言。

・6日、モスカリ議員(影の内閣「内務相」)は、選挙でヤヌコーヴィチ側を支援した企業に対する調査を行わないよう、当局に指示が出されていると発言。

2. 経済

マクロ経済

・6日、3月末時点での対外直接債務は2月末比11.4%増の17億30万ドル、また、直接国内債務は2月末比12.9%増の124億850万グリブナであったと財務省が発表。

・7日、中央銀行は4月末時点での外貨準備高が4.8%増の12億445万ドルと発表。

国内政策

・2日、最高会議は2010年度の安定化基金(302億グリブナ)創設に合意。同基金のうち、66億9600万グリブナはEURO2012関連に、93億グリブナが石炭産業支援に、30億3300万グリブナが農業関連企業支援に、15億400万グリブナが優先産業企業、宇宙産業への投資事業等に、18億グリブナが投資及び革新的なプロジェクトに利用される。

農業

・5日、ニブロン社は2015年までにザポリージャ州のドニプロ川沿岸及びアゾフ海沿岸に穀物や搾油植物の保存・輸送用施設を3つ建設予定であると、ザポリージャ州が発表。

ガス問題

・1日、ミレル露ガスプロム社長は、ナフトガスと露ガスプロムの合併が株式交換により実施される可能性があると発言。

・3日、ユーシチェンコ大統領は、プーチン露首相によるガスプロム社とナフトガス社の統合提案に関し、ウクライナの戦略的財産を守るよう呼びかけ。

・3日、ナフトガスと露ガスプロムの合併の可能性について、欧州委員会は、関係国政府間の内部の問題であり、EUが重視するのは、ウクライナがガス国内市場の透明性を高めることにより、EU側からの参入が容易になるよう改革を継続することであるとコメント。

・5日、ナフトガスは、4月分の対露ガス代金である4億1900万ドルの支払いを完了と発表。

・5日、アザーロフ首相は、4月21日のガス価格合意により、対露ガス代金が予定よりも20億グリブナ低く押さえられたと発表。

・5日、ヤヌコーヴィチ大統領は、プーチン露首相によるナフトガスと露ガスプロム合併の提案に関し、国益を十分に考慮した後にウクライナ側からの回答を出すべきであると発言。

その他

・5日、国家財産基金は国営企業の民営化により1-4月期に1億5541万グリブナを国庫に移転。なお、2010年度予算で民営化により102億6266万グリブナの歳入が計画されている。

3. 外政

▼3日、グリシチェンコ外相のNPT運用検討会議出席

・3日、NPT運用検討会議出席のためニューヨークを訪れたグリシチェンコ外相は、アシュトン EU 外務・安全保障政策上級代表と会談し、連合協定交渉、FTA創設及び無査証渡航制度に向けたロードマップ作成等のウクライナ・EU間の諸問題につき協議。アシュトンEU上級代表は、今般のウクライナ・露間のガス分野における合意に関し、財政的な面でウクライナにとって有利かつEUにとっても欧州のエネルギー安全保障の面で有利なものであるとコメントし、EUにとって特別なプライオリティーを持つウクライナとの政治対話継続に期待を表明。

・3日、グリシチェンコ外相は、潘国連事務総長と会談し、ウクライナと国連のアクチュアルな問題を検討。グリシチェンコ外相は、2011年4月にキエフで開催予定のチェルノブイリ原発事故20周年記念国際シンポジウムに潘事務総長を招請。

・3日、グリシチェンコ外相は、アッセルボルン・ルクセンブルグ外相、シュピンデルエッガー・オーストリア外相及びモラティノス・スペイン外相と個別に会談し、二国間関係、経済貿易協力、ウクライナの欧州統合等のテーマにつき協議。

▼5日～6日、ダーヴトオール・トルコ外相のウクライナ

来訪

・5日、グリシチェンコ外相とダーヴトオール・トルコ外相は、ハイレベル戦略委員会創設に関する声明に仮調印。グリシチェンコ外相は、本声明の仮調印の背景を、黒海地域及び欧州大陸における安全保障強化の必要性を両国が認めているため、とコメント。ダーヴトオール外相は、二国間関係が極めて良好であり、今後さらに貿易経済及び文化交流分野での協力を強化していくと発言。

・6日、ジャルティ・クリミア自治共和国首相と会談したダーヴトオール・トルコ外相は、ウクライナ・トルコ間の査証廃止及びFTA創設を提案。

▼その他

・5日、ズラボフ駐ウクライナ露大使は、17～18日にメドベージェフ露大統領がキエフ訪問し、ロシア・ウクライナ間の国境画定の問題を検討することになると発言。

4 . 防衛

黒海艦隊駐留問題

・7日、グリシチェンコ外相は、この数年間露黒海艦隊駐留問題解決に必要な政治的な環境と意志がともに不在であっ

たと指摘するとともに、ウクライナとロシアは露黒海艦隊駐留に伴う全ての問題を首尾良く解決するであろうと発言。

NATO

・4日、ロゴジン露NATO常駐代表は、ウクライナとグルジアは当面の間、NATO加盟国にはならないであろうと発言。

・5日、ラスムセンNATO事務総長は、ウクライナは既存の枠組みにおいてNATOとの協力を継続するであろうと発言。

・5日、スヴィダ参謀総長兼軍司令官は、NATO本部においてNATOとウクライナ間の航空現況情報の交換に関するMOUに署名。

露黒海艦隊艦船とタグボートの衝突

・4日、露黒海艦隊揚陸艦「ヤーマル」が、ウクライナのタグボートと衝突。タグボートは転覆したものの船員は脱出。「ヤーマル」は戦勝記念日行事に参加するためにミコライフに向かっていた。

・5日、外務省は、露黒海艦隊揚陸艦「ヤーマル」とウクライナのタグボートとの衝突は、単なる技術的事件であり、ロシア側に否があることを示す情報を有していないと発表。

B . その他の動き

5 / 3 (月)

・ケルチ、ミコライフ及びオデッサにおける戦勝65周年行事に参加するため、露黒海艦隊艦船がセヴァストーポリを出港。

5 / 4 (火)

・スヴィダ参謀総長兼軍司令官は、EU軍事委員会においてウクライナ軍の状況につき説明、EU側はEU主導による対海

賊作戦「アトランタ」へのウクライナの参加決定を賞賛。

5 / 5 (水)

・5日、セミノジェンコ副首相は、第65回戦勝記念日行事にロシア、スロバキア、ポーランド、ラトビア、カザフスタン等12ヶ国からの代表団が出席予定と発表。

(了)